



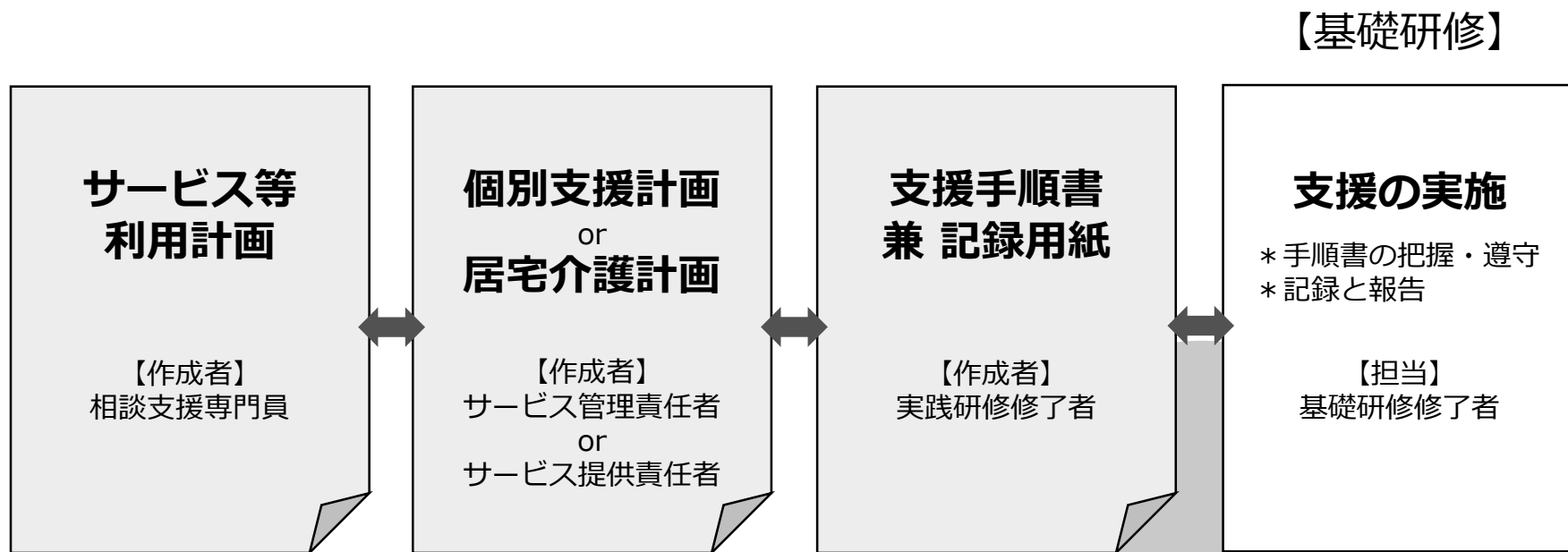
1日目 17:50~18:10〔20分〕

【講義】 1日のまとめ

国立のぞみの園 信原和典

- 1日目のプログラムを振り返ります（各講義と演習のねらいを再度確認）
- 支援の枠組みの図で「チームで支えるという意味」をしっかりと考えてみましょう
- 指導者養成研修（都道府県における研修実施者養成）として、受講されている皆さんに是非とも理解して欲しいこと

チームで支えるという意味をしっかりと考えよう



強行指導者養成研修の目指すところ

- 日々の利用者の変化に応じた細かな支援の**変更**が必要
- 支援の記録を取り、修正に反映する仕組みが重要になる

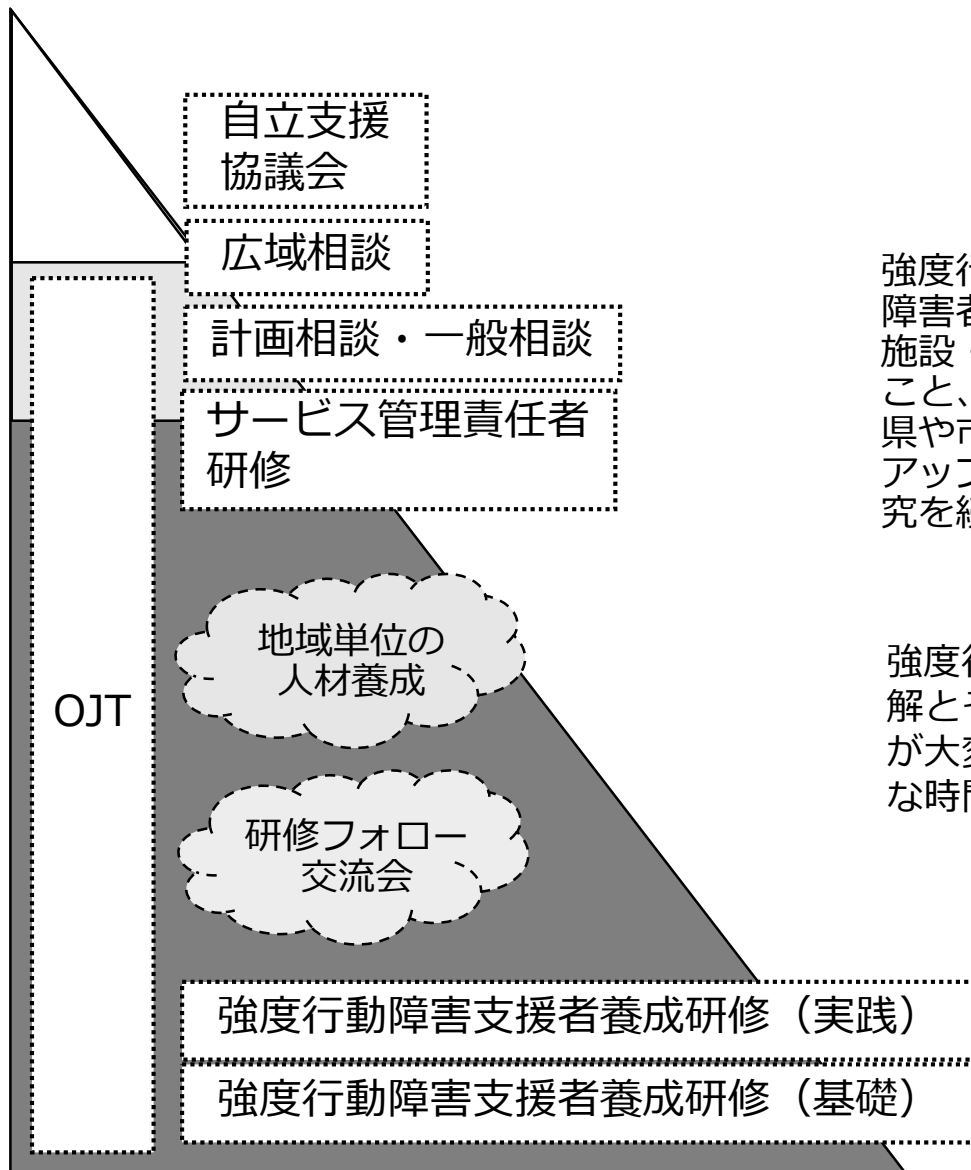
強度行動障害者支援の人材養成のコース案

質の高い生活の実現

障害特性に配慮した計画

健康やニーズを配慮

障害特性の理解

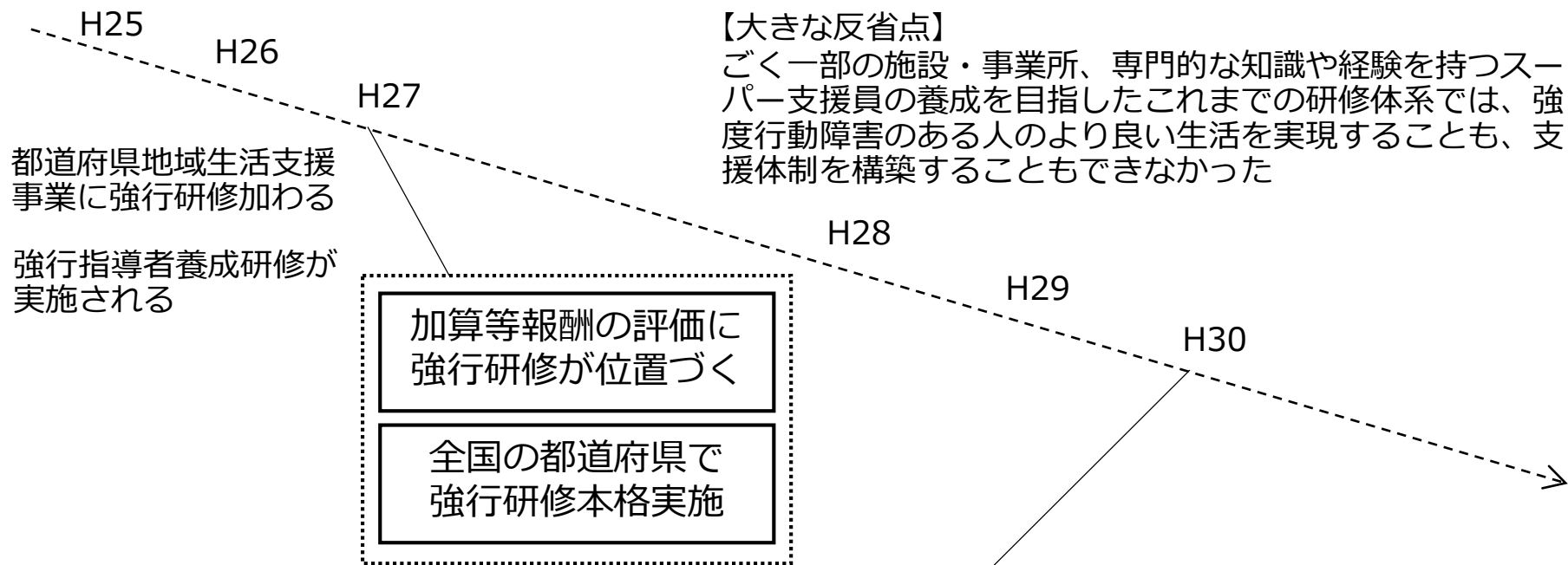


強度行動障害者支援者養成研修だけで、強度行動障害者支援の人材養成が完了するわけではない。施設・事業所内のOJTの重要性はもちろんのこと、ステップアップするための工夫を都道府県や市町村単位で工夫して下さい（ステップアップのあり方については、のぞみの園でも研究を続けていきます）

強度行動障害者支援においては、障害特性の理解とその特性に配慮した計画を立案できることが大変重要であり、この過程を学ぶことに大きな時間と労力を要する

行動障害の背景にある障害特性を理解し、どのように対応を行うか、その基本的ノウハウを学ぶ第一歩の研修

早い段階で、多くの修了者を生み出す工夫の大切さ



- 加算等申請の標準化 → 現実的で効果的な支援の手順書や記録等のモデルがたくさん登場する
- 強度行動障害支援者養成研修以外の地域での独自の人材養成の取り組みが増える → 人材養成が法人・事業所任せでなく、地域で検討される
- ベスト・プラクティスが増える → 地域で、施設・事業所単位で有益な実践が増え、医療の必要性が低い入院（拘束）や虐待の件数が減る

- 基礎・実践修了者2万人以上 → 規模が重要。ただし、修了者の事業が偏ることも避ける必要あり
- 地道な実践を積んだ事業所の協力の元に運営する研修 → 丁寧な実践報告を複数散りばめる。現実的な収支（費用徴収）、効果的な事務局体制の確立を（指定事業所の選定・モニター）
- 都道府県の積極的関与 → 強度行動障害者は決して多数派ではないが、長い時間をかけても整備できなかった。新たな仕組みへ向けて挑戦